

2013-B					
拠出金・基金の名称		国際熱帯木材機関・生物多様性条約(CBD)共同プロジェクト			
種 別		イヤーマーク ノン・イヤーマーク			
【拠出先の国際機関名】 国際熱帯木材機関 (ITTO)					
【所管官庁担当局課・室名】 外務省国際協力局地球環境課					
【当該任意拠出金の目的・用途等】					
<p>1 ITTOは、我が国に本部を置く数少ない国際機関の一つであり、持続可能な熱帯林経営のための世界的な基準作りと途上国のプロジェクト支援を中核とする国際機関。</p> <p>2 2010年我が国で開催された第10回生物多様性条約締約国会議(CBD-COP10)では戦略計画2011-2020(愛知目標)が採択され、10年後の愛知目標達成に向けた世界的な行動が求められる。</p> <p>3 このような中、ITTOとCBD事務局は、2010年3月に両国際機関が締結したMOUを踏まえ熱帯林を有するITTO加盟国(生産国25か国)において、CBDの森林の生物多様性作業計画実施を支援するための4年間の共同イニシアティブを実施(能力構築及び技術支援)することとなった。プロジェクトはITTOが、CBD事務局及びドナーと協議しつつ実施する。</p> <p>4 上記共同イニシアティブを支援することにより、以下の愛知目標達成にむけた各国の取組を推進することになり、CBD新戦略計画の実施に貢献する。さらに、共同イニシアティブは温暖化ガスの主要な排出の原因(17%)となっている熱帯林の減少を防ぐことも目的としており、気候変動問題対策としても有効である。</p> <p> 上記(ア): 目標7(林業が持続可能に管理される)に貢献 上記(イ): 目標11(保護地域を通じて生物多様性が保全される)に貢献 上記(ウ): 目標14(生態系が保全され、自然の恵みが享受される)に貢献 イニシアティブ全体: 目標15(生態系が気候変動の緩和と適応に貢献する)に貢献</p> <p>5 このため、共同プロジェクトを支援する事は、我が国が責任ある国際社会の一員として、生物多様性及び気候変動問題に積極的に取り組んでいるとの高い評価を国際社会から得ることにつながる。</p>					
【最近3年間の我が国支払額及びODA率】					
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率 (%)
平成25年度	210,022	2,561	-	1米ドル = 82円	100
平成24年度	103,731	1,281	-	1米ドル = 81円	100
平成23年度	117,500	1,320	-	1米ドル = 89円	100
【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】					
<p>1. 熱帯林には、地球上の全ての生物種(推定約3,000万種)の半数以上が生息しており、生物多様性の保全・回復の重要性が特に高い。</p> <p>2. COP10で採択されるポスト2010年目標において、森林は、20の目標のうち目標5(森林を含む生息域の損失速度を減らす)や目標7(農業・林業が持続可能に管理される)など少なくとも4つの目標に深く関わっている。</p> <p>3. ITTO加盟国は世界の熱帯林面積の8割をカバーする専門機関である。ITTOは、生物多様性分野において20年の事業実績を有しており、中でも越境森林保全地域の拡大では、世界各地で1,000万ha(日本の国土面積の4分の1に相当)の越境保護地域の画定を支援してきた。</p>					